

## 令和4年度第3回小田原市学校給食費検討委員会 議事概要

日 時 令和4年12月22日(木) 午後3時15分～3時35分

場 所 小田原市生涯学習センターけやき 第3会議室

出席者 岩田真由美委員長、中村眞樹子副委員長、小田中大直委員、藤崎奈津子委員、  
飯島里美委員、植村智子委員  
(事務局) 飯田教育部長、栢沼教育部副部長、内田学校安全課長、田代副課長、  
田邊給食係長、山崎給食係長、甕主査、中根主事

欠席者 久保寺佳香委員、小川新治委員

### 議題

- (1) 答申「学校給食材料費について」
- (2) その他

### 議事概要

#### 1 開会

#### 2 議題

岩田委員長：

議題1 答申「学校給食材料費について」を議題とする。  
事務局からの説明を求める。

内田課長：

学校給食材料費について(答申)(案)を参照いただきたい。

令和4年10月20日付けで本委員会への諮問事項「令和5年度以降の学校給食材料費の1食単価について」表のとおり、小学校276円、中学校342円、幼稚園233円とするものである。

第2回会議で、1食単価に係る各論点について議論を重ね、この結論に至った。

2の理由は、これまでの議論の概要をまとめて記載している。

(1) 委員2名の栄養士が作成した標準献立は、中村副委員長にも確認をいただき、栄養価や栄養素を十分満たし、質・量ともに妥当であり、保持する必要があるとした。

(2) 標準献立の1食単価は、令和4年度下半期の物資価格を当てはめると、小学校274

円、中学校 340 円、幼稚園 231 円となる。

(3) 牛乳について、神奈川県学校給食会によると、次年度より 1 本あたり 2 円の増となる可能性が高いとのことから、1 食単価に反映した。

(4) デザートなど、その他の物資も値上げの傾向が見られるが、献立作成時に工夫することとして、今回の単価には加味しない。

(5) 3 品献立の実施にあたり 1 食単価は増となるが、今回の単価には加味しないこととする。しかし、給食は「生きた教材」という観点から実施に向けて取り組むことが好ましいので、対応できる学校・調理場から、調理等の工夫等をして月 1 回程度取り組むことが望ましいとした。

(6) 感染症対策の観点から、実施しているパンの個包装を廃止することで 1 食単価を抑えることができるが、感染状況が緩和されてから廃止することとして、今回の単価には加味しないこととした。

以上が 1 食単価に至った理由である。

付帯意見については、本日欠席の小川委員から前回までの答申案の文言である「(1)物価高騰下の社会情勢を踏まえると、学校給食費の保護者の負担を軽減する対策を市の政策として講じていただきたい」の方が適切ではないかとのことのご意見をいただいたが、給食材料費は保護者負担の原則もあることから、「物価高騰対策等の国の動向を注視しながら、保護者の負担が急激に増えないように適切な対応をお願いしたい」と柔らかな言い方にした。

豊かな食の提供につながる 3 品献立については、人員や施設等の課題を改善して進められたいとした。

今回の審議では、牛乳用ストローの脱プラスチックも含めて、環境に配慮した取組は大切であるが、給食材料費の価格高騰が続く現状においては、将来的な課題とされたいとした。物価動向が安定しない状況下では、今回の 1 食単価（給食費）で質・量ともに十分な給食が提供可能であるか毎年検証されたいとした。

次に、資料 1 は、2 回の本委員会の審議の概要である。ご確認いただきたい。

資料 2 の 1 食単価は、令和 4 年 4 月から 6 月の 1 食単価及び給食費月額、令和 5 年度以降の 1 食単価及び給食費換算額・月額、現行給食費月額との差額を示した。小学校は、1 食単価は 19 円増加して 7.4%増の 276 円となり、給食費換算額としては 4,700 円相当である。

中学校、幼稚園についても記載のとおりとなる。

給食材料費については、保護者負担の原則もありこのような表を作成した。

岩田委員長：

この答申案は、第 2 回学校給食費検討委員会での意見をもとに事務局が作成し、その後メールにて追加や修正等のご意見等をいただき、2 回ほど重ねて確認をしたので、この場では最終的な答申案を確認することをお願いしたい。

中村副委員長：

学識経験者の私からも、答申内容は十分精査し、第 2 回会議後にメールではあるが 2 回の

修正等の確認をしたものであることから、今回の答申案については、この場で確認することをお願いしたい。

岩田委員長：

ご意見等いかがか。

(意見等なし)

岩田委員長：

本委員会としてこの答申案を答申として決定してよろしいか。

(異議なし)

岩田委員長：

異議なしということで、本委員会としてこの答申案を答申として決定することとする。  
事務局は、答申書の写しの配布をお願いする。

(事務局が、答申書の写しを配布)

岩田委員長：

それでは、議題（２）その他に移る。

今回の令和４年度学校給食費検討委員会について、内容や運営等に対しての意見や感想等を簡潔にいただきたい。中村副委員長から順番にお願いする。

中村副委員長：

まずは、日ごろから栄養士の方々にご努力いただき、限られた金額できちんとした給食が出ているということが、みなさんとこの場で確認ができてとてもよかった。現場での先生方のご尽力がとてもよく分かった。ただ引き続き、「生きた教材」ということを掲げていき、様々な課題もあるとは思いますが、どの方に関してもそれぞれの立場で子どもたちのためにより良いものを作るという考えは一致できたので、引き続き皆さんで良いものを作っていけたら、また私もこのことに関われば良いと思った。ありがとうございました。

飯島委員：

栄養士の立場から言うと、今まで公会計化する前の給食費の考え方がしみついていて、なかなか切り替えることができず、「自分の学校のお金」という考えがあり、うまく献立に反映できなかった部分もあった。今年度、途中から補正予算をいただいて、子どもたちのために妥協ないものが出せるようになるという、このような献立を立てられる喜びを感じ、安心感もある。(献立を立てる上での) 給食費の使い方を改めて勉強する機会になってよか

ったのと、様々な立場の方々に、給食の献立を立てるにあたっての苦勞を知っていただける機会でもあり、ありがたかった。

植村委員：

今年度に入り、物価高騰により献立を立てることがすごく大変だった。限られた中で精いっぱいやってきたが、子どもたちに還元できないということが一番辛かった。7月から補正をいただいでお金にゆとりができて、ゆとりがあるときちんと栄養価も満たせて、立てている方も満足できるし、子どもたちも食べて満足できると感じた。今回、標準献立で今年度用の価格で献立を作成したことで物価の高騰を改めて実感し、みなさんにもそれが分かっていただけで、様々なご意見をいただけて勉強になった。ありがとうございました。

藤崎委員：

保護者の立場から発言するが、今回、栄養士の方々の努力等様々なことを聞いて良い機会になった。自分には小学生と中学生の子どもがいるが、給食の愚痴等を話すこともあるが、努力されている話を聞いていると、感謝して食べてほしいと感じた。これからも子どもたちのために努力が続くと思うが、おいしい給食を引き続きお願いしたい。また、保護者の声を届けられる場、聞いていただける場があると良いと強く感じた。ありがとうございました。

小田中委員：

この場で栄養士の方々が創意工夫されているということがとてもよく分かった。それを元に、今物価が高騰していて、これからどのように学校教育の中でも位置付けていくのかと考えながら参加した。要望的なことであれば、保護者に負担をかけないということがやはり学校現場での意見であるにとらえていただければありがたいと思うし、教育振興計画等でも食育の推進等を図っているわけなので、それについて小田原市としてコロナ等様々なことがあると思うが、どのようにこれを捉えて、市の政策等に生かしていただくのが今後の課題であると痛感している。SDG sの話も途中出たが、子どもからすると目に見えるSDG sを伝えるには、分かりやすい指摘だったと捉えているので、対応するにあたっての様々な課題を今後どうしていけばよいのかを教育委員会とともに、学校現場の意見も聞きながら進めていくことがとても大事だと思う。学校安全課の事務局はとても大変だったと思うがありがたかった。今後ともよろしくお願いします。

岩田委員長：

給食を何年も食べてきたが、このような場があって給食費が決まっていることは今回初めて知った。そのようなことを学ばせていただいたこの会に参加できたことはとてもよかったと思う。物価高騰が続く中、栄養士の方々が苦勞されて献立を考えてくれていることが改めて分かった。学校現場にいと子どもたちは本当に給食が好きな子が多く、とても楽しみにしている。今日はクリスマス献立があった。そんな子どもたちの様子を見てると

給食は大事だな、生きるために食べなくてはならないので、食べるということは本当に大切なことであると実感した。日々のご努力ありがとうございます。

事務局の方もありがとうございました。その他、皆様から何かあるか。

飯田部長：

本日は答申のとりまとめをいただきまして誠にありがとうございました。1回目、2回目と事務局からの説明も足りなかった部分もあったが、皆さん積極的に議論に参加いただき、答申をいただけたということで、これから委員長、副委員長とともに私も（市長のもとへ）行くが、実際に来年度の給食費がどうなるのかは正直我々も分からず、年明けの市長査定まで持ち越しの状態である。国も物価高騰対策をやってきているので、それとの兼ね合いもあるし、子育て支援全体の中でどのような政策を優先的にやっていくのか。例えば来年度からの中学生の医療費助成は所得制限がなくなる。同じ子育て世代向けの政策でも色々な形があるわけで、給食費という形で負担を軽減するのが子育て政策としてよいのかどうか、政策の優先順位というものがどうしてもあるので、市として総合的に判断しながら政策を進めていき、選択していくものである。できるだけ負担を減らしてほしいという気持ちは、市長もこの答申をいただいてしっかりと受け止めると思うが、様々な政策を打っていく中で総合的に考えて最終的には決定するというところで、ご理解いただければと思う。本当に皆さんありがとうございました。

岩田委員長：

ご意見等尽きたようである。全議題が終了したので、議長としての役割を終えて、進行を事務局に戻す。議事進行について、ご協力を感謝する。

内田課長：

答申書は、会議終了後、市長室にて正副委員長から市長に提出していただくので、正副委員長は閉会後も待機をお願いします。

以上をもって、全日程が終了したので、令和4年度第3回小田原市学校給食費検討委員会を閉会します。

令和4年度学校給食費検討委員会の運営に多大なるご協力を賜わり、誠にありがとうございました。